様式６号の７

学番	２３	新潟県立西新発田高等学校

令和４年度　　**学校自己評価表（まとめ）**

学　校　運　営　計　画		
学 校 運 営 方 針	教育目標 自主実行：心身共に健康であり自主的精神に富み、真理と正義を愛し、勤労と責任を重んずる実行力旺盛な人物の育成を期する。 寛容礼節：個人の価値を尊び他人に対して礼儀正しく寛容であり、すべての人々の福祉を尊重し、そのために努力する人物の育成を期する。 合理創造：常に科学的合理的な判断力を養い、より平和的な国家および社会の建設に努力する人物の育成を期する。 　教育目標を達成するために、職員の英知を結集し、学校としての組織力を高め、教育活動の充実を図り「自立して生きていく力を身につけ地域に貢献できる人材を育成する学校」づくりを行う。	
昨年度の成果と課題	**令和４年度の重点目標**	**具体的目標**
《成果》 ・体験的な学習を通して、他者と協働できる力、社会性や自己肯定感、自己有　用感を育むことができた。 ・職員が感染症対策をしっかり行い、協力して感染予防に取り組んだ。 ・様々な課題を持つ生徒に対して、職員がスクールカウンセラーからのアドバイスを受けながら適切な指導や支援を行うことができた。 《課題》 ・個に応じた特別な指導が必要な生徒が増加傾向にあるので、研修会等を実施しこれに対応するための職員のスキルアップが必要と考える。	次の４点を生徒に身に付けさせる	
	１　他者と協働できる力	普段の授業だけでなく、体育・文化的活動、インターンシップなど体験的な活動をとおして学び合い、教え合う力を育てる。
	２　社会性	地域人材を活用するとともに全校校外清掃などボランティア活動をとおして外部と交流し、地域から学び自己実現につなげる。
	３　挑戦する心	学び直しのための学校設定科目、少人数制授業、30分授業、学校行事等での学びのなかで、成功体験を味わい、さらに学びを深め自己を高める心を育てる。
	４　自己肯定感・自己有用感	スクールカウンセラーの複数配置やソーシャルスキルトレーニングなど、個に応じた対応と生徒理解に努める。 人権教育、同和教育を推進し、差別やいじめは絶対許さない環境づくりを行う。

重点目標	**具体的目標**	**具　体　的　方　策**		**評価**	
他者と協働できる力	高校での学習方法、生活への適応を図るとともに積極的に部活動等に取り組ませ、豊かな人間性を養う。 職員と生徒間の適切なコミュニケーションを図り、集団生活の中で、生徒自らが個性を生かし、自己実現を目指し努力するよう指導する。	教務	生徒の目標に沿った履修計画の作成や単位修得指導を適切に行えるように、履修指導や面談の時期・期間を計画する。また、様々な履修システム（定通併修、高認験等）の熟知を図る機会を設ける。	B	A
			生徒にとってわかりやすい授業を展開するために履修形態（少人数、習熟度別、ＴＴ等）やICTを活用した授業を展開することができる環境整備・教室配置、講習等を行う。	A	
			成績及び出欠状況を生徒・保護者に確実に通知する。また、出席率向上や単位修得につなげるため、欠課時数の通知時期を見直し、色別カードを用いて適切な時期に通知する。	A	

		生徒指導	生徒会行事を通してリーダーシップや生徒の自主的な実践力を育む。また、学校活性化のための委員会活動を生徒自らが積極的に取り組むようにする。	A		A
		１年次	基本的生活習慣と自ら学ぼうとする学習習慣を確立するよう指導・支援する。他者を認め、他者を思いやる心の育成を図る。	A	A	
		２年次	基本的生活習慣と落ち着いて学ぼうとする姿勢の確立。自己肯定感と他を思いやろうとする意識の醸成をはかる。	A		
		３年次	生徒自らが意欲を持って学ぶ姿勢を確立するとともに、しっかりと目的意識を持って学校生活に取り組める環境作りを推進する。	A		
		４年次	今後の自分自身の将来像を考えさせるとともにそれを実現させるために必要な自主的に学ぶ姿勢の確立を目指す。	B		
		特別支援	スクールカウンセラーや外部機関との連携により、教育相談や支援の充実を図る。	A	A	
挑戦する心	自己理解の深化を図り、進路情報を活用させながら、将来の展望を持たせ、進路意識の高揚を図る。 進路目標達成に向けて努力させるとともに、適切に面談等を行い、自己の在り方・生き方を考えさせる。	進路指導	「総合的な探究の時間」などを通じて、１年次から段階的に、進路実現に向けた進路意識の育成を図る。	A	A	B
			卒業予定者に対して、就職説明会及び進学説明会を定期的に実施するなど、計画的な進路指導を行い、卒業に向けた具体的な進路意識を育成する。	A		
		１年次	自己の適性や特性の理解と進路意識の啓発に努める。	A	B	
		２年次	自己の能力を向上させようとする意識、将来につながる向上心と自己の適性の理解と進路意識の啓発に努める。	B		
		３年次	個々の進路の目標達成を家庭との連携を密にして進めていくとともに、社会人となる人間関係の結び方や社会性を身につけさせる。	A		
		４年次	日々の声がけや面談を通じて生徒の自己肯定感を高めながら進路意識を身につけさせる。	B		
社会性 自己肯定感・自己有用感	地域から応援される学校づくりに向け、保護者と学校が力を合わせ、学校の課題解決に取り組むとともに地域貢献となるボランティア活動等を行う。 豊かな人間性や規範意識を身につけさ人として自立できる意識と自覚を醸成する。	教務	地域の声を聞く会、学校評議員会、後援会から出された意見や情報を参考に、地域から応援される学校づくりの推進のため、教育課程や行事計画を構築する。	A	A	
			HP を充実させるとともに学校通信「澄みて輝く」を発行し、近隣住民へ回覧することで、本校の取り組みや様々な情報を発信し、家庭や地域からの理解を深める。	A		
			避難訓練に際し、全校生徒対象に自衛隊及び新潟県赤十字センターと連携を図り、生徒対象の救急救命講習会や防災教育､献血講話を行い、地域交流やボランティア精神の醸成を図る。	A		
		生徒指導	教職員の連携を密にし、規則正しい生活、ルールやマナー、思いやりのある言動を身につけるよう、引き続き粘り強く指導する。	A		

		保健	関係職員・関係機関との連携を密に行い、生徒の健康的な心身の生活をサポートしていく。	A	A	A
			日常の清掃や大清掃で学習環境の整備を行い校舎内外の整備・美化に努める。	B		
		１年次	学年通信等を通じて保護者に学年・学校の情報を伝える。 保護者面談等を通して、個々の生徒の情報を保護者と共有しながら生徒の成長をサポートする。	A	B	
		２年次	学年通信等を通じて保護者に学年・学校の情報を伝える。 保護者面談等を通して、個々の生徒の情報を保護者と共有しながら生徒の成長をサポートする。	B		
		３年次	学級通信を通じて保護者に学年・学校の情報を伝える。保護者面談等を通じて、個々の生徒の情報を保護者と共有しながら生徒の成長をサポートする。	A		
		４年次	学年通信等を通じて保護者に学年・学校の情報を伝える。保護者面談等を通して、個々の生徒の情報を保護者と共有しながら生徒の成長をサポートする。	B		
		人権教育、同和教育	同和教育講演会や人権・同和教育の授業、日常の教育実践の交流を通じて、豊かに生きるための在り方生き方を共に考える。	A	A	
成　果	・校内できちんと挨拶をする生徒が増え、生徒会行事などの集団で行う活動にも他者と協力して活動に取り組むことができるようになってきた。 ・個に応じた指導特別な指導が必要な生徒が増加した中、大学入学共通テスト受験者や、県立大学の合格者を育てることができた。 ・いじめ認知件数は増加した。しかし、いじめの未然防止、早期発見に職員とＳＣが協力して務め、事案後の対処を慎重かつ丁寧に行ったため、被害生徒保護者からの要望はなかった。			総合評価 A		